

医療・健康管理問題改革委員会における福祉的な検証の進め方

1 趣旨

医療・健康管理問題改革委員会（以下「改革委員会」という。）では、4月25日に中間報告を公表後、最終報告書に向けて、施設で起こるエラーのPDCAによる改善についての要因分析や、健康管理のガイドラインの各専門領域の判断基準等の更なる議論が必要であり、引き続き改革委員会で検討していくこととしている。

一方、改革委員会で十分に検証しきれていない福祉的な検証については、障害福祉分野の有識者、施設関係者、障害当事者で構成する、県立中井やまゆり園改革アドバイザー会議（以下「アドバイザー会議」という。）で進めていく。

2 検証内容

- ・ 改革委員会で扱った16事例のうち、特に掘り下げて検証が必要な5事例に加え、4月に亡くなられた事例を含め、6事例を検証する。
- ・ 検証結果は、改革委員会に報告し、最終報告書に盛り込む。

3 検証方法

- ・ アドバイザー会議委員以外に支援改善アドバイザー、上野医務統括補佐を検証メンバーに加え、検証を行う。
- ・ 検証するにあたって、園職員から希望を募り、検証チームを結成する。

4 検証の視点（現時点の案）

過去の生育歴から遡って紐解き、体調不良等になる以前の過去の支援や利用者の暮らしを次の視点から振り返り、検証する。

- ① ○○さんの暮らしはどうだったか。もっとできることはなかったのか。（活動、食事摂取、リハビリなど）
- ② 体調不良や異変に早期に気づくことができなかったか。
- ③ 適切に医療へ繋ぐことができていたか。

※加えて、改革委員会の議論を踏まえて、事例ごとに設定

5 検証を進めるにあたって（意見交換）

（1）Aさんの検証（羽生アドバイザーからケースレポート）

園において、現時点で唯一全生育歴を捕捉しているAさんの人生を振り返ることで、利用者の人生への向き合い方や利用者を取りまく福祉と医療のあり方を考えるとともに、今後の検証の礎としたい。

(2) 園が考える「福祉の専門性」「生育歴の意味」

今回の検証にあたって、個別の事象だけでなく、共通の視座を持って、利用者の暮らしや関係性に意味や価値を見出す検証とするため、福祉の専門性の議論を深めたい。

(3) 論点整理

上記を踏まえ、今回の検証にあたっての論点を整理する。

6 スケジュール（案）

- | | |
|-------|---|
| 7月29日 | 第1回アドバイザー会議を開催
(内容) ・ 検証にあたって意見交換 |
| 9月頃 | 第2回アドバイザー会議を開催
(内容) ・ 事例の検証 |
| 10月頃 | 第3回アドバイザー会議を開催
(内容) ・ 6事例の継続検証
・ 検証結果のまとめ |
| (下半期) | 第4回医療・健康管理問題改革委員会で報告
(内容) ・ 検証結果を報告 |

【参考】アドバイザー会議設置要綱

(所掌事項)

第2条 本会議は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を所掌する。

(1) プログラムに基づき県が作成した「県立中井やまゆり園当事者目線の支援アクションプラン～一人ひとりの人生を支援する～」の進捗状況、実施成果の確認、県からの求めに応じて専門的・多面的見地等からの助言を行う。

(2) その他、県立中井やまゆり園の支援改革の推進に必要な事項に関すること。

(議長及び副議長)

第4条 本会議に議長及び副議長を置く。

2 議長は構成員の互選により、副議長は議長の指名により選任する。

3 議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を本会議に出席させることができる。